

浪江町ガイドブック

浪江町

^{ゼロ}
0からの挑戦



福島県浪江町

浪江町ガイドブック

浪江町

^{ゼロ}
0からの再出発



福島県浪江町

地域のシンボルである請戸小学校を震災遺構として整備・保存し、防災について考えるきっかけとして、また、後世へ伝承していくための施設として公開しています。

あの日、すべてを失った町

悲劇には違いなかった

ある日突然、町から人の姿が消えた——そんなことが起こった場所がありました。
福島県双葉郡浪江町。
山があって、川があって、海があって。田んぼがあって、暮らしがあって、笑顔があって。
この田舎の町には、一見「何にもない」ようだけれど、大事なものはすべてありました。
それが 2011 年の東日本大震災と原発事故で一変しました。大津波が 1 階の窓をすべてぶち抜いた
海辺の小学校。生徒たちは逃げて無事でしたが、みんなの思い出がつまった建物はそのあと何年も、
どうすることもできませんでした。町全体に人が入れなくなってしまったからです。
一方、海から離れた山間の小学校。一時は原発に近い海のほうから逃げてくる人たちの避難場所になりました。でも、まもなくそこからも逃げなければならませんでした。後からわかったのは、実は山のほうが放射線量が高かったこと。そこには今でも、人が住むことが許されていません。
すべてを失った浪江は、まずマイナスからゼロへ這い上がらねばならませんでした。

でも悲劇では終わらせない

全国に散り散りになった浪江の人たちは、それでも決してふるさとを諦めませんでした。
少しずつ、少しずつ、町を元の姿へ。いや、前よりもっとすてきな町へ。
みんなたくさんの苦勞を乗り越えて、それぞれの方法で浪江の復活に力を尽くしてきました。
大震災から 6 年後、ついに町の一部で避難指示が解かれ、里に、海辺に、人が戻ってきました。
コメを育てる。魚をとる。モノをつくる。お店を営む。大事なものが、当たり前暮らしが、町に戻ってきました。新しく創立された小学校にも、子供たちの声が戻ってきました。
戻るだけではなく、たしかに浪江には、前とは違う新しい顔が生まれつつあります。
マイナスからゼロへ。そしてプラスへ。幾度もの再出発を生きてきた町。その可能性に惹かれた人々が他所から集まりつつあります。
守り受け継いできたものと、最先端のものが並んで走る、ダイナミズム。
既存の形容詞では表しきれない、いまの浪江をどうぞご覧ください。

MAP ① 請戸小学校

里に、町場に、 人の営みが戻ってきた

道路と建物だけで町は完成しない。町をつくるのは人。当然のように使われるこのフレーズの意味を、浪江は痛いほどよく知っています。

まだだれも住めない頃から、避難先から通って「町のこし」に奮闘してきた人たち。彼らを応援しながら帰れる日を待っていた人たち。そして、より良い「町づくり」を志してやってきた人たち。けっして諦めなかった人々が、いまの浪江をつくっています。



生徒10人で始まった新しい学校

震災から7年経った2018年。浪江の地にひとつの学校が開校しました。当時、入学した生徒は小中合わせ全部で10人。家族と一緒に浪江に帰ってきた子どもたちです。今では、子どもたちを支える町民や町のサポーターが協働する、新しい学びのスタイルが生まれ始めています。

浪江町立 なみえ創成小学校・中学校

農業再興に尽力する人々

営農再開は町の生業復活の要です。今、浪江を故郷とするベテラン農家だけでなく、浪江の可能性を信じる企業や新規就農に挑戦する若い移住者たちが、土を耕し種をまき、浪江産の農作物づくりに汗を流しています。



人と人がつながるカフェ

浪江に戻った時に集まる場が欲しい、と願う町民の思いから生まれたカフェ。草木染体験、音楽ライブ。集うみんなが自然と笑顔になれるイベントが、ここでは繰り広げられています。浪江のことを伝え、広げ、つながる場から浪江の希望が生まれます。

MAP ② オカフェ OCAFE

道の駅は「復興のシンボル」以上の場所に

浪江産の野菜や海産物が手に入る産地直売所、浪江のグルメやソウルフードが堪能できるフードテラス、座敷でくつろげる談話コーナー、など。浪江のモノや人が集まるこの場所は、復興のシンボルであると同時に、新生・浪江の発信地でもあります。

MAP ③ 道の駅なみえ



海に、港に 人の声が戻ってきた

浪江の年中行事は、元旦、水平線から昇る日の出を拝み、一年の無事を祈ることから始まります。

人々の生活の一部であった海は、あの日、恐ろしい津波に姿を変えました。豊富な魚介を水揚げしていたうけど請戸漁港も、一時はガレキで埋め尽くされました。

漁師たちはそれでも港の再建、漁の再開を待ち続け、努力を重ねました。そしていま、請戸には再び、大漁旗がなびき、競りの声が響いています。



海^{でぞめしき}の安全と豊漁を願い復活した出初式

浪江の冬の風物詩。正月の請戸港に出初式^{うけど}が戻ってきました。大漁旗をなびかせた漁船団が日の出の海へ出港する姿は、勇ましくも美しく、海と共に生きる人々の覚悟と誇りを感じさせます。

MAP ④ 請戸漁港

再建された漁港に響く競りの声

朝9時。しらすにヒラメにホッキ貝、大量の魚介を載せた漁船が次々と帰港します。真新しい荷捌き施設で、獲れたての魚^{うけど}を真剣な表情で競り落としていく仲買人たち。請戸の漁港に、日常の風景が戻ってきました。

MAP ④ 請戸漁港



地産地消の「海の幸」

海鮮丼に、生しらす丼。他にも漁港から直送される鮮魚を使った料理は、町内の飲食店で味わえます。再建された加工施設では、干しらす、ちりめんじゃこなどの出荷もはじまり、浪江産「海の幸」をいろいろな形で楽しむようになりました。

MAP ③ 道の駅なみえ

太平洋で育った魚を全国へ

請戸漁港に水揚げされる新鮮な魚介は、太平洋の豊かな漁場で獲れる「常磐^{じょうばん}もの」として高い価値があります。その中でもひととき大きく身のしまった「請戸^{うけど}もの」は、地域の食文化を支えるだけでなく、県外の飲食店やスーパーなどにも直送されます。



絶やさなかった 伝統の灯が 戻ってきた

伝統とは、ただの形式ではありません。その心を受け継いでこそ意味があります。
郷土に根差した技や芸能を、土地を追われても維持していくのは、大きな困難を伴いました。
それでも守り続けられたのは、そこに心があったからです。消えることのなかった伝統の灯は、
いまついにふるさに戻り、そこで再び灯され始めています。

この地の神に祈りを捧げ舞う、伝統の神楽



あんばまつり

豊漁と豊作を祈り、踊る、安波祭

津波で本殿が流失した菰野神社。ここには毎冬、豊漁豊作を祈念して子どもたちが舞う田植踊が奉納されてきました。三百年の歴史を持つこの伝統行事は避難先でも絶えることなく続けられ、7年後には土台だけが残る神社跡でついに復活。次の世代に受け継がれています。



しねはこうのまおいまつり

勇壮な騎馬武者たちが駆ける、標葉郷野馬追祭

千年の歴史をもつ神事、野馬追祭。郷とよばれる5つの地区から騎馬武者が南相馬市の祭場に集結し、御行列や甲冑競馬、神旗争奪戦などを行います。大震災後も途切れず続けられてきましたが、標葉郷の陣屋がある浪江町からの出陣式、そして浪江町内での凱旋式典や神旗争奪戦は、震災8年後に念願の復活を果たしています。

なみえ産品

困難を乗り越え、浪江の地で復活した誇りの逸品から、一部をご紹介します。



かぼちゃ饅頭

津島地区で生まれた名物お菓子。かぼちゃの餡がぎっしりと詰まっているのが特徴です。入手できる機会が限られている貴重な一品です。



なみえ焼そば

太麺に濃いめのソース、具は豚肉ともやしのみ。シンプルながら、半世紀前から地元で愛され続けるソウルフード。今では代表的なご当地グルメのひとつとなっています。



しらす

請戸に揚がる「しらす」は浪江の海の特産品です。しらす干しやちりめんじゃこなどの加工施設も新設され、請戸のしらすを全国の人々に届ける仕組みが復活しました。



いわきことぶき

磐城壽

全建屋流失の困難を乗り越え、新天地で酒造りを再開した鈴木酒造店の代表銘柄。その味は町民に変わらず愛され続けてきました。最近は浪江の米と水を使った酒づくりも開始、ついに町内での生産も復活します。



おおぼりそうまやき

大堀相馬焼

江戸元禄時代に生まれ、大堀地区で守り継がれてきた伝統工芸。20 以上あった窯元のうち、現在では約半数が県内各地で再開を果たしています。青ひび、二重焼き、走り駒が特徴で、町を代表する特産品です。



ようろしくなィ♪

浪江町公式
イメージアップキャラクター

うけどん

全町避難がつづく中、町民同士の絆の維持を願い、町民からのアイデア公募で誕生したキャラクター。ゆるキャラグランプリでも健闘した「うけどん」は、子どもからお年寄りまでみんなに愛されています。

なみえ見どころ スポット



うけどがわ
請戸川リバーライン MAP 5

ふくしまの遊歩道五十選に選定された美しい観光名所。春には 1.5 キロにわたって 120 本のソメイヨシノが咲き誇り、訪れた人を魅了します。



福島県復興祈念公園 MAP 8

震災と原発事故の犠牲者を悼み、教訓を後世に伝える復興祈念公園「追悼と鎮魂の丘」。隣接する「東日本大震災・原子力災害伝承館」では、震災と原子力災害の記憶を伝えています。



大平山コミュニティ広場 MAP 6

高台にある広場のすぐ下が、津波の到達地点。太平洋を望むその景色からは、忘れることができない震災の教訓が得られます。



道の駅なみえ MAP 3

浪江産品の、買う・見る・食べるが叶う道の駅がオープン。観光情報から被災地復興の現状なども確認できます。変化している浪江町の今がわかる、流行発信地です。



なみえまるみえ情報館 MAP 7

JR 浪江駅に併設されている案内施設。浪江町の食や観光、イベント情報がギュッと詰まっています。旅の始めに気軽に立ち寄れるスペースです。



福島水素エネルギー研究フィールド (FH2R) MAP 9

世界最大級の水素製造能力を持つ実証実験施設。施設内 6 万 8 千枚 (20MW) の太陽光パネルの電力でつくられるクリーンな水素が、県内外へ供給されます。水素は温暖化対策の切り札として世界中から注目されています。



宿泊施設

福島いこいの村なみえ	浪江町大字高瀬字丈六 10 ☎0240-34-6161
やすらぎの宿 ホテル双葉の杜	浪江町大字幾世橋字田中前8 ☎0240-23-7099
HOTEL ザ・ナミエテラス	浪江町大字高瀬字桜木 32-3 ☎0240-23-4431
ホテルプレジールなみえ	浪江町大字高瀬字桜木12 ☎0240-23-5920
新妻荘	浪江町大字川添字佐野 39-3 ☎0240-34-1650

スタディツアー



スタディツアーの
詳しい情報はこちら！▶

浪江を見て感じる学びのツアー

世界に類のない過酷な経験をした浪江町。この町がどんな町で、どんなストーリーがあったのか。今どうなっていて、これからどうなっていくのか。日々変化・成長し続けるありのままの姿をご案内します。

まちづくりなみえ
http://www.mdname.jp/



EVENTS

浪江町のイベント



十日市祭

浪江町の秋の風物詩で、近隣からも大勢の人を集める賑やかなお祭りです。震災後は、会場を駅前目抜き通りから地域スポーツセンターへ移し、地域の人々の交流・再会の場として盛大に行われています。



なみえ夏まつり

町外からも多くの人々が訪れて、町全体が活気づく 2 日間。盆踊りやステージイベントで盛り上がり、花火が浪江の夜空を彩ります。



あるけあるけ初日詣大会

元旦に、道の駅なみえから請戸海岸まで約 5 キロの道のりを歩き、初日の出を拝む恒例の行事です。



ACCESS

浪江町への行き方

電車			
東京方面から	品川駅	[JR 常磐線：特急ひたち]	浪江駅 約3時間20分
仙台方面から	仙台駅	[JR 常磐線：特急ひたち]	浪江駅 約1時間10分
仙台方面から	仙台駅	[JR 常磐線] → 原ノ町駅 → [JR 常磐線]	浪江駅 約1時間40分
仙台空港から	仙台空港駅	[仙台空港アクセス線] → 名取駅 → [JR 常磐線] → 原ノ町駅 → [JR 常磐線]	浪江駅 約2時間

高速道路

仙台方面から	仙台南I.C.	[仙台南部道路・仙台東部道路・常磐自動車道]	浪江 I.C. 約1時間30分
いわき方面から	いわき中央I.C.	[常磐自動車道]	浪江 I.C. 約1時間

一般道路

福島から	国道 114 号	約1時間30分
仙台から	国道 6 号	約3時間
いわきから	国道 6 号	約1時間30分



浪江町役場 産業振興課 商工労働係
〒979-1592 ☎0240-34-0247
福島県双葉郡浪江町大字幾世橋字六反田7-2

浪江町ホームページ
https://www.town.
namie.fukushima.jp/



浪江町の情報発信基地
なみえまるみえ
https://www.730.media/



浪江町YouTubeチャンネル
なみえチャンネル
YouTubeで検索！

